

「OTOTEN2017」終了御礼

一般社団法人 日本オーディオ協会 会長 校條 亮治
実行委員長 小川 功一

5月13日(土)、14日(日)の二日間にわたって開催しました「OTOTEN 2017」に対し、皆様からご支援と応援を賜り誠に有り難うございました。天候も難しい季節だけに気を揉みましたがまずまずであったと思います。お陰様で大きな事故もなく今までとは一味違ったお客様をお迎えすることもできました。今年は装いを新たに「OTOTEN2017」として大きく4点の変更を行いました。

第一は、ターゲットの変更です。これまではハード機器中心に展開してきましたが音楽ファン離れが著しく今回は“音楽ファン”そのものに照準を当てました。アーティスト目当ての感も否めませんが結果的に若年層及び女性層への手がかりが掴めたと考えます。

第二は、開催時期の変更です。音楽・オーディオと言えば“秋”が定番ですがメーカーも流通も固定化された日程で手いっぱい状況でした。2008年までは“春シーズン”の方が市場規模は大きかったのですが今や見る影もありません。結果的に春のマイナス分はそのまま市場規模の縮小になってしまいました。今後は市場の動きをよく見ていく所存です。

第三は、場所の変更です。ターゲットや時期とは密接不可分の開催場所は思い切って都心を選びました。やはり有楽町駅前「東京国際フォーラム」という認知度の高い会場は集客という点では大きく寄与したものと考えます。

第四は、内容の大幅変更です。ターゲット、開催時期、開催場所の変更をすれば当然内容は全てが有機的に機能し合う内容でなければなりません。「OTOTEN 大使」の活用、「ストーリーミング&配信事業者」とのコラボレーション、「スマホからカーオーディオまで」「アナログからハイレゾまで」の多面的なリスニングシーンの提案、「4K・8K映像とハイレゾのライブ中継送信」、「ストーリーミングのハイレゾ化」等意欲的な技術実験を展開しました。ハイレゾ・オーディオも導入以来4年目に入っており、世界スタンダードの地歩を固めるところに来ました。

以上啓発の在り方を意欲的に変えましたが、詳細は事前アンケートや出口調査などを基にマーケティング分析を行い、今後の協会活動の道標とする所存です。皆様の益々のご健康とご発展をご祈念申し上げ「OTOTEN2017」終了の御礼挨拶とさせていただきます。